

## 3歳児健診における視能訓練士と保健師の連携について

満井 楓子

上天草市健康づくり推進課 保健師

上天草市は、熊本県の西部、有明海と八代海が接する天草地域の玄関口に位置し、天草地域に浮かぶ島々から構成されています。本市は平成16年に大矢野町、松島町、姫戸町、龍ヶ岳町の4町が合併し、上天草市になりました。令和元年度の人口は25,210人、出生数は138人で、高齢化が進んでいます。

現在、本市の3歳児健診は3歳1か月児を対象に、身体計測、問診、内科・歯科診察、視覚・聴覚検査、尿検査、保健・栄養指導を保健センターにて集団健診で実施しています。中でも視覚検査は上天草総合病院より視能訓練士の方々に出務していただき、実施しています。本市健診における視能訓練士の方々の協力の歴史は長く、旧4町の中には合併前から協力いただいている町もありました。

本市の3歳児健診視覚検査における精密検査件数は別表のとおりです。精密検査対象者のうち、8割以上の子どもさんに何らかの疾患が発見され、経過観察が必要な状況になっています。平成30年8月には視能訓練士の方々のご協力を得て、近隣市より早くスポットビジョンスクリーナーを導入したことにより、保健師等はそれぞれの問診や指導に専念することができるようになりました。

令和元年度には「3歳児健診の視覚検査に関する研修会」と題し、熊本県眼科医師会の医師、視能訓練士の方々に、子どもの視覚の発達を含め、健診での視覚検査の意義、検査のポイントなどについての研修を行っていた

できました。それまで、視覚の発達について詳しく学ぶ機会や、実際に検査器具に触れる機会もなかったため、有意義な学びとなりました。弱視や斜視の基本は早期発見・早期治療が重要とお話もありましたが、別表のとおり、健診で要精密検査となった場合でも医療機関を受診せず、精密検査未受診となっている子どもさんもいる状況です。今後は確実に精密検査を受診していただくよう、保護者の方へ受診勧奨を行っていきたいと思います。また、研修の中では、メディアと子どもの視力についてのお話もしていただきました。乳幼児健診にて子どもと関わる中で、メディア（特に携帯端末）利用の低年齢化を実感しています。保健指導でメディアの使用方法を伝えるとき、コミュニケーションの発達への影響について説明もしますが、保護者の方がより興味・関心を示すのは、視力への影響です。研修以降、保健指導の資料に小児科医会の「子どもとメディア」の5つの提言<sup>1)</sup>を載せるようになりました。子どもの視覚の発達について、具体的に保護者の方に伝えられることも多くなり、充実した保健指導が実施できるようになったと感じています。

子どもの乳幼児期の健全な発育・発達のためには感覚器の発達は重要で、普段の生活においても特に視覚から取り入れている情報は多くあります。今後も、子どもの健全な発育・発達のために、視能訓練士の方々や関係各所と連携しながら乳幼児健診を実施していきたいと思っています。

別表 3歳児健診の視覚検査の受診状況 (人)

	検査受診者	視覚検査 精密券発行数	精密検査				
			未受診	異常なし	要再検査	要経過観察	要治療
平成30年度	182	41	9	13	11	6	2
令和元年度	161	14	1	2	9	1	1
令和2年度	145	23	5	2	9	0	5

<参考文献>

- 1) 「見直しましょう メディア漬け」公益社団法人日本小児科医会作成リーフレット